

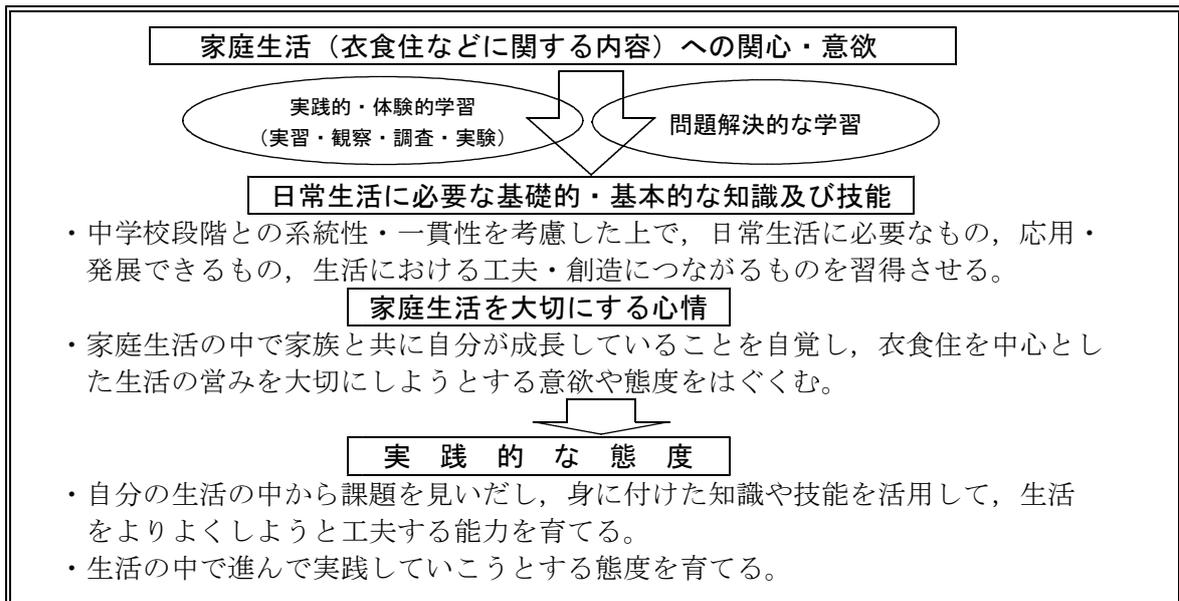
家庭科

1 家庭科でねらうもの

学習指導要領の目標

衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にする心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

小学校家庭科では、家庭生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、生活における自立の基礎を培うとともに、家庭生活を大切にする心情を育てることで、生涯にわたる家庭生活の基盤となる能力や態度をはぐくむことを目指している。



家庭科では、家族をはじめ、人とかかわる意味やよさについて、実践する喜びを味わいながら、実感を伴って理解できるようにすることを目指している。そこで、自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視し、家庭生活と近隣の人々とのかかわりや、家庭生活を取り巻く環境への影響を考慮しながら、よりよい家庭生活を工夫していくことが大切である。

2 学習指導要領の特色

(1) 基本方針

- ① 自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視し、生涯の見通しをもって、よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成する視点から、子どもたちの発達段階に応じた体系的な目標や内容とする。
- ② 社会の変化への対応として、家族・家庭に関する教育の充実と食育の推進、社会において主体的に生きる消費者をはぐくむ視点を重視する。
- ③ 体験から、知識と技術を獲得し、実際に活用する能力と態度を育成するために、実践的・体験的な学習活動を重視する。また、知識・技術などを活用して、課題を発見し解決できる能力を育成するために、問題解決的な学習を充実する。
- ④ 学校における学習と家庭や社会における実践との結びつきに留意した内容とする。

(2) 具体的事項

① 目標

衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にする心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

② 内容構成

中学校の内容との体系化

中学校技術・家庭科の内容との系統性や連続性を重視し、生涯の家庭生活の基盤となる能力と実践的な態度を育成する観点から、小学校・中学校ともに同じ枠組みをもつ4つの内容で構成している。このことは、小学校と中学校における内容の円滑な接続を図り、中学校での内容を見通して、小学校の学習に求められる基礎的・基本的な知識及び技能や、生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度が着実にはぐくまれることを目指している。

小学校	中学校（家庭分野）
A 家庭生活と家族	A 家庭・家族と子どもの成長
B 日常の食事と調理の基礎	B 食生活と自立
C 快適な衣服と住まい	C 衣生活・住生活と自立
D 身近な消費生活と環境	D 身近な消費生活と環境

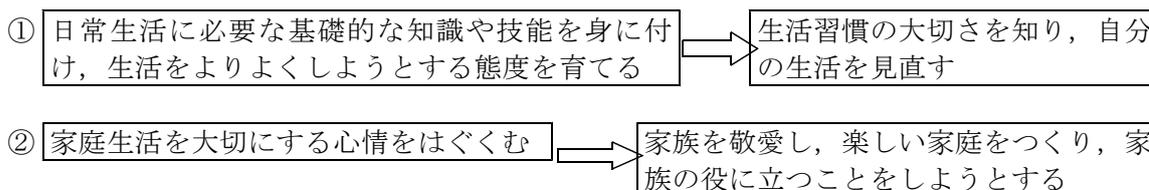
③ 指導内容

- ア 成長する自分を自覚し、家庭生活を大切にすることをめぐる家庭・家族に関する教育の充実
- イ 小学校4年生までの学習を踏まえた2学年間の学習のガイダンス的な内容の設定
- ウ 食事の役割や栄養を考えた食事のとり方、調理などの食生活に関する内容の充実
- エ 社会の変化に対応して、主体的に生きる消費者としての態度を育成する視点の重視
- オ 他教科との関連を明確にした連携の重視
- カ 言語を豊かにし、知識及び技能を活用して生活の課題を解決する能力をはぐくむ視点の重視

3 道徳との関連

家庭科の目標と道徳教育との関連

家庭科では、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる教科であり、家庭生活を大切にすることをめぐることをねらいとしている。下に示す関連を意識しつつ、教科の指導を充実させることが道徳教育の充実を図ることにもなると考える。



4 家庭科における言語活動

家庭科では、実践的・体験的活動、問題解決的な学習における言語活動を充実するようにする。また、人と人をつなぐ意志の伝達としての言葉を大切に学習活動も取り入れる。

- ・衣食住など生活の中の様々な言葉を、製作や調理などの実習をしたり、観察したり、触れたり、味わったりする体験を通して、実感を伴って理解する。
- ・自分の生活における課題を解決するために、言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりする。
- ・実習などで体験したこと振り返りをまとめ、発表し合う。
- ・家族や地域の人に、感謝の気持ちを書いたり話したりする。